

# 「令和6年度 全国学力・学習状況調査」



## 赤磐市の状況

令和6年8月 赤磐市教育委員会

令和6年4月18日(木)に、全国学力・学習状況調査が実施されました。(結果の通知は7月下旬に行われました。)

赤磐市の結果とその分析、今後の取組の方向性についてお知らせします。

### 全国学力・学習状況調査（文部科学省実施の全国調査）について

#### <目的>

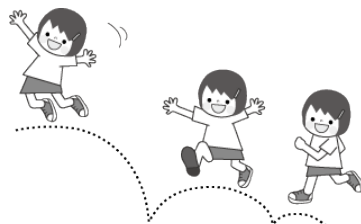
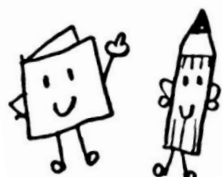
- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

#### <調査の内容>

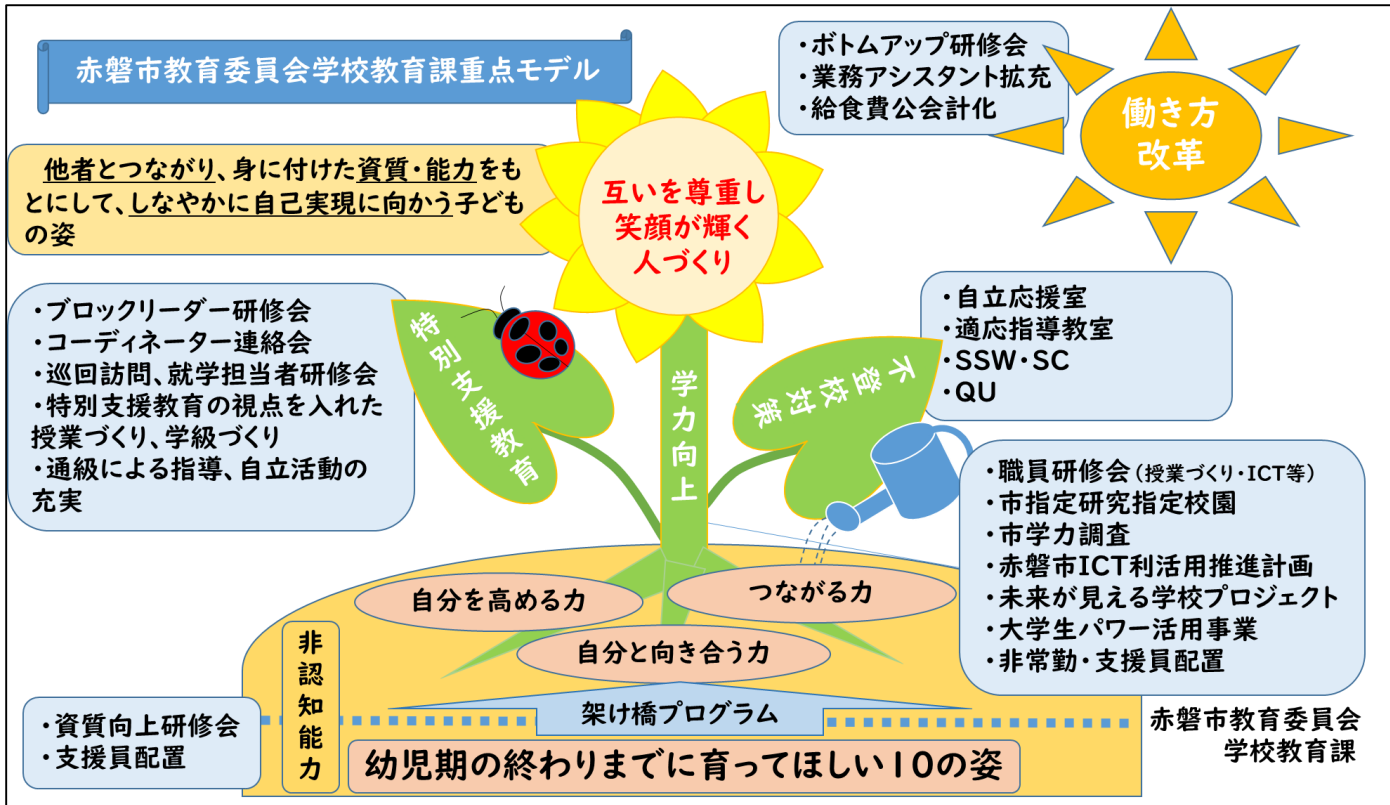
- 児童生徒に対する調査
  - ・教科については、国語、算数・数学の2教科について実施
  - ・学習意欲、学習方法、学習環境等に関する質問紙調査
  - ・学習指導要領に示された目標や内容に基づき、調査対象の前学年までの学習内容が出題範囲
- 学校に対する質問紙調査

#### <調査対象>

- 対象者は、小学校6年生、中学校3年生の生徒  
(赤磐市内参加者：小学校6年生 402名、中学校3年生 310名)



赤磐市教育委員会では、「赤磐市教育委員会学校教育課重点モデル」(下図)に示しているとおり、非認知能力を基盤とすることで、学力向上へ向かうものと捉えています。したがって本調査につきましても各教科の学力状況の他、児童生徒質問紙から見ることのできる非認知能力についても分析を行います。



赤磐市 教育振興重点目標 基本理念  
「互いを尊重し、笑顔が輝く人づくり」

基本目標  
「生きる力をはぐくむ幼稚園教育、学校教育の充実」

赤磐市教育委員会学校教育課では、「基本理念『互いを尊重し、笑顔が輝く人づくり』」を「他者とつながり、身に付けた資質・能力をもとにして、しなやかに自己実現に向かう子どもの姿」と捉え、「学力向上」「不登校対策」「特別支援教育」「働き方改革」の4つの重点を掲げています。

児童生徒の自己実現、自立のためには、確かな資質・能力(学力)を身に付けなければなりません。その中で、多様化する児童生徒にとってよりよい自立につなげていくためには、特別支援教育の視点と不登校の未然防止、不登校対策は欠くことができません。

さらに、目まぐるしく変化する社会にしなやかに対応し、生きぬくためには、「夢をもつ」「あきらめずにやり抜く」「他者と調和を保ち協働できる」といった非認知能力が必要であり、この非認知能力が資質・能力(学力)の向上につながると考えています。そこで非認知能力を「自分を高める力」(自尊感情・向上心等)「自分と向き合う力」(粘り強さ、自制心等)「つながり合う力」(協調性等)の3つに整理しました。

非認知能力は就学前の教育から育まれるものであるため、**幼児教育と義務教育との連続性や幼稚園や保育園、こども園と小学校の接続**を大切に考え、取組を行います。

<参考>

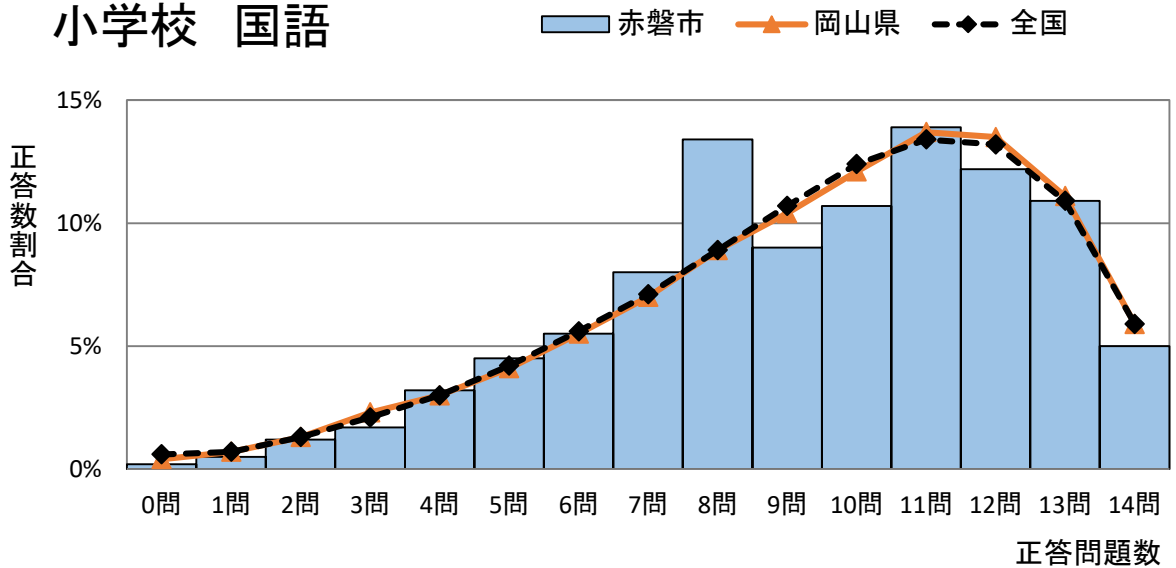
- ・赤磐市教育振興重点目標 赤磐市教育委員会
- ・令和4年度教育施策の概要 岡山県教育委員会
- ・非認知能力レンズで「いいとこ」みっけ!!岡山県教育庁生涯学習課 など

# 赤磐市 全国学力・学習状況調査の結果

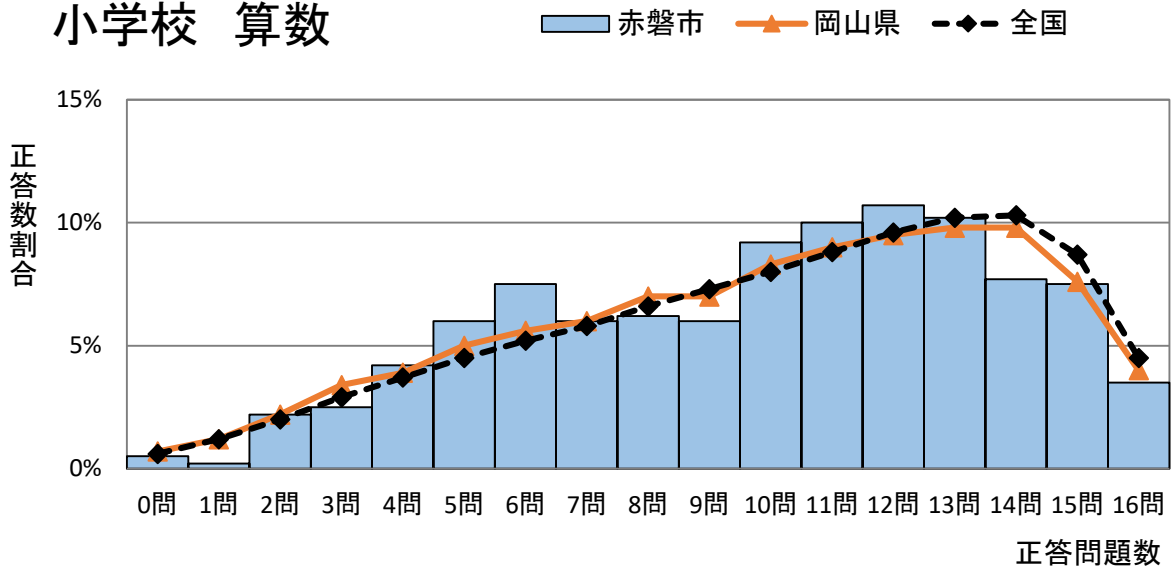
## 小学校6年生の学力調査結果から

【グラフの見方】  
 横軸→正答問題数  
 縦軸→児童生徒の正答数の割合  
 を示しています。

### 小学校 国語

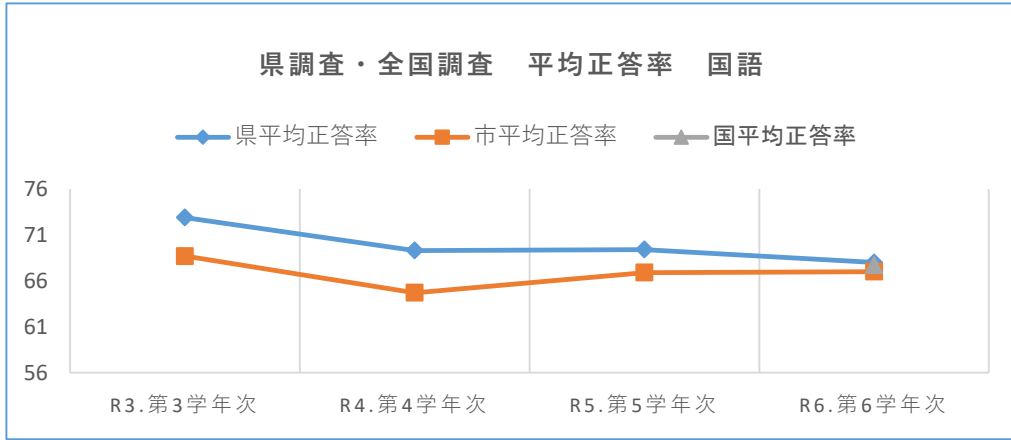


### 小学校 算数

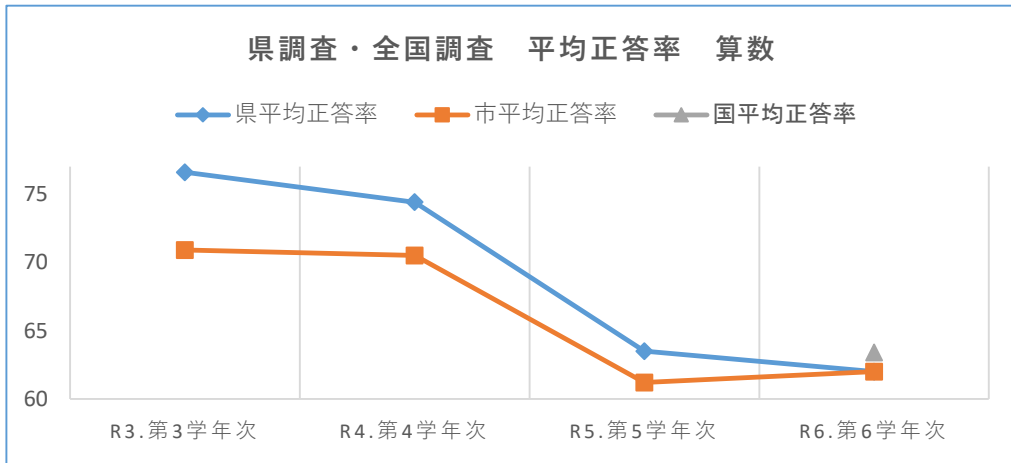


# 同一集団による経年比較により、改善と課題を明確に

令和6年度6年生における、3年次からの経年変化を岡山県の平均正答率と比較したものです。3年生から5年生までの平均正答率は「岡山県学力・学習状況調査」、6年生の平均正答率は「全国学力・学習状況調査」をそれぞれ用いています。



2019年度入学 (令和6年度6年生)					中央値
国語	R3.第3学年次	R4.第4学年次	R5.第5学年次	R6.第6学年次	R6全国調査
県平均正答率	72.9	69.3	69.4	68	10
市平均正答率	68.7	64.7	66.9	67	10
全国平均正答率				67.7	10



2019年度入学 (令和6年度6年生)					中央値
算数	R3.第3学年次	R4.第4学年次	R5.第5学年次	R6.第6学年次	R6全国調査
県平均正答率	76.6	74.4	63.5	62	10
市平均正答率	70.9	70.5	61.2	62	10
全国平均正答率				63.4	11

## 学力調査結果の分析【小学校】

### 国語の概況

- ・平均正答率は県と比べて $\Delta 1.0$ ポイント、全国と比べて $\Delta 0.7$ ポイント、中央値は県及び全国と同じく10であり、おおよそ全国平均レベルである。
- ・県や全国との平均正答率の差は3年次、4年次よりも縮まっている。

### 国語の改善点(○)と課題点(▲)

- 「読むこと」の領域については、4年次、5年次の県調査結果と比較して、正答率が改善している。
- ▲「話すこと聞くこと」の領域については、「話し手の工夫を捉える」設問において、課題が見られる。

### 国語の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- ・「読むこと」の指導について、本文中の叙述をもとに登場人物の心情の変化を捉える指導を丁寧に行ってきた成果が表れていると考える。
- ・「話すこと聞くこと」の指導について、「自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」について改善が求められる。国語での指導だけでなく、総合的な学習の時間や社会科等においても自分の考えをまとめ、効果的に相手に伝える取組を設定するなど、指導を工夫することが考えられる。
- ・3年次の県調査の結果から6年次にかけて平均正答率の差が縮まり、改善傾向を示している。これらは、児童の実態に合わせたきめ細かい個別の支援や、授業改善に向けた努力の成果だと考える。

### 算数の概況

- ・平均正答率は県と同じ、全国と比べて $\Delta 1.4$ ポイント、中央値は県とは同じであるが全国と比べて低い状態である。
- ・県や全国との平均正答率の差は縮まっている。

### 算数の改善点(○)と課題点(▲)

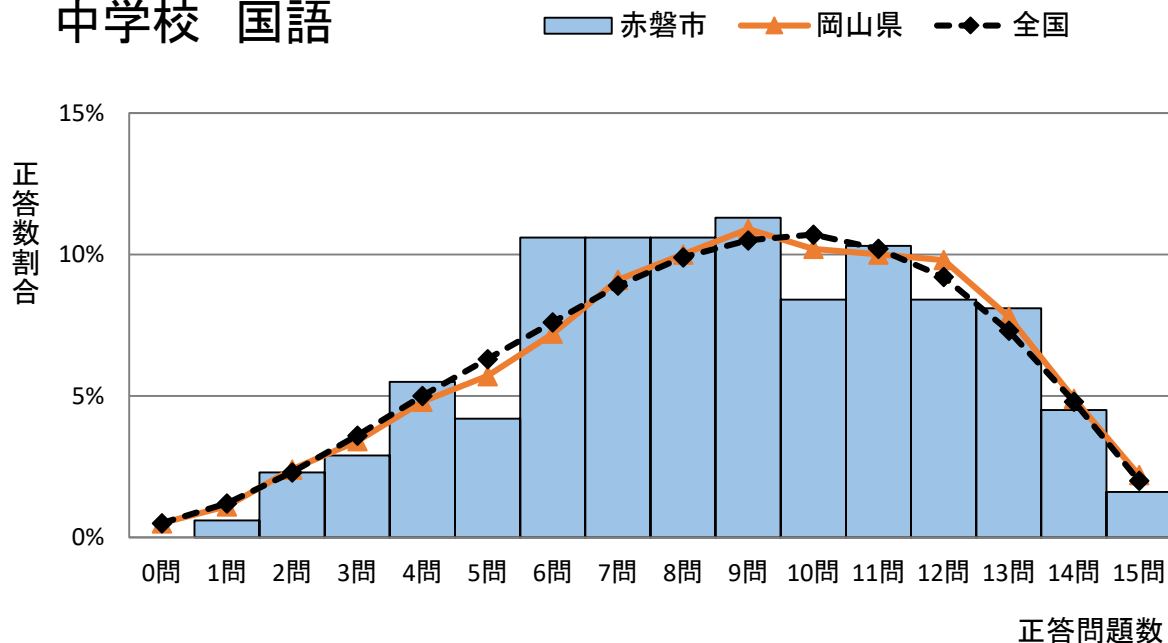
- 「数と計算」の領域では、おおよそ県や全国と正答率が同じくらいであり、4年次5年次の県調査の結果と比べると改善傾向にある。
- ▲「変化と関係」の領域において、県や全国の正答率を下回る設問が多い。

### 算数の結果に対する分析と授業改善等のポイント

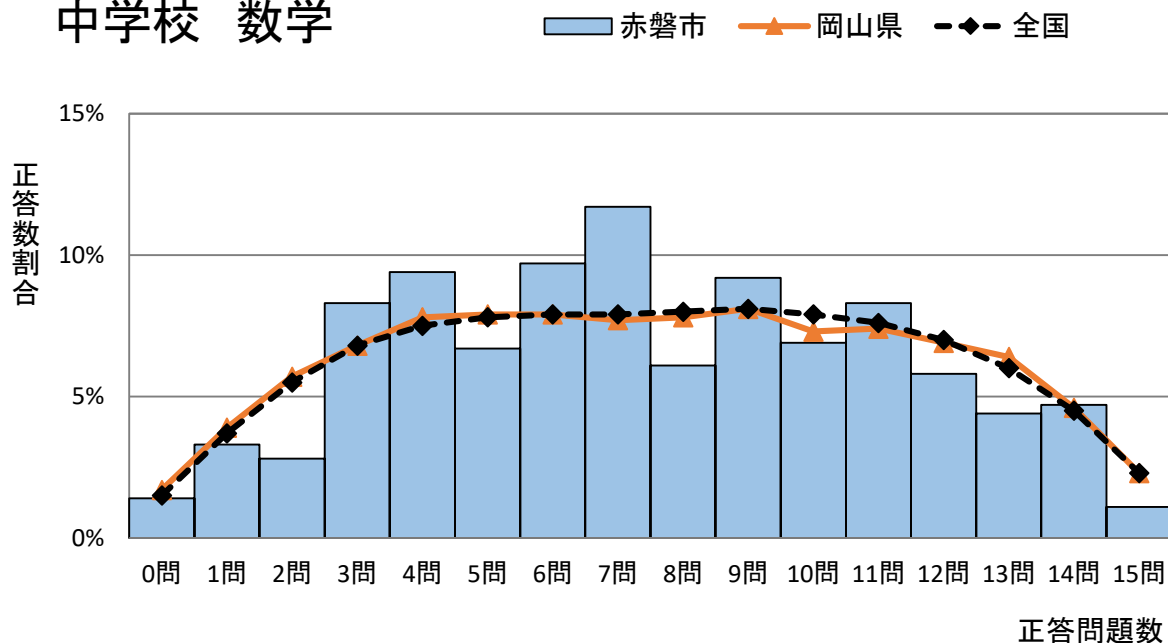
- ・「数と計算」では、基礎基本の定着を図る指導と問題文での場面把握や計算が成り立つ意味理解の指導を丁寧に行っていることが改善につながったと考える。
- ・「変化と関係」では、伴って変わる2つの量の関係に着目し、表にかいたり、数値化したりする活動や日常生活と関連付けて考える活動を通して、その変化の規則性を考える指導が重要となる。
- ・3年次と比べ、県や全国との平均正答率の差が縮まってきているのは、授業改善等の成果だと考える。
- ・平均正答率が40%以下の児童が多数いることが見て取れる。各校において、実態に即した個別の支援の手立てが望まれる。

# 中学校3年生の学力調査結果から

## 中学校 国語

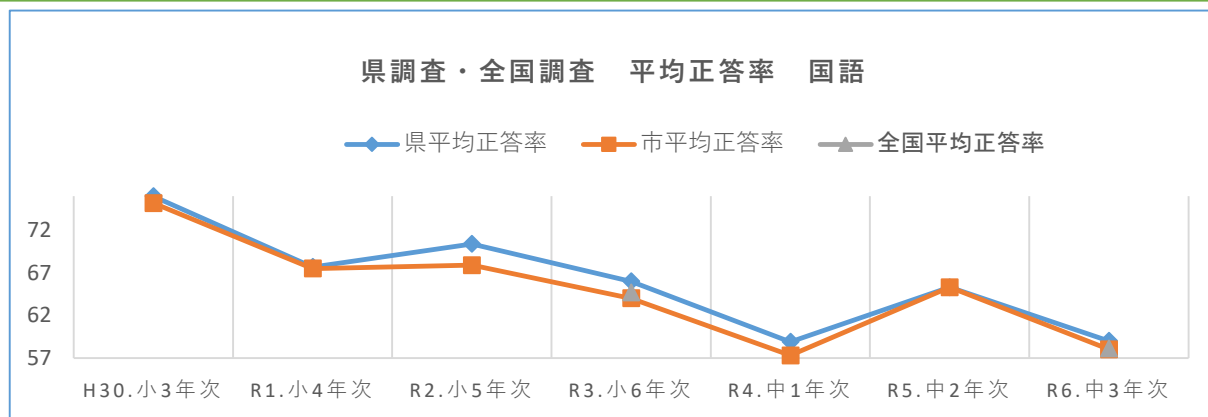


## 中学校 数学



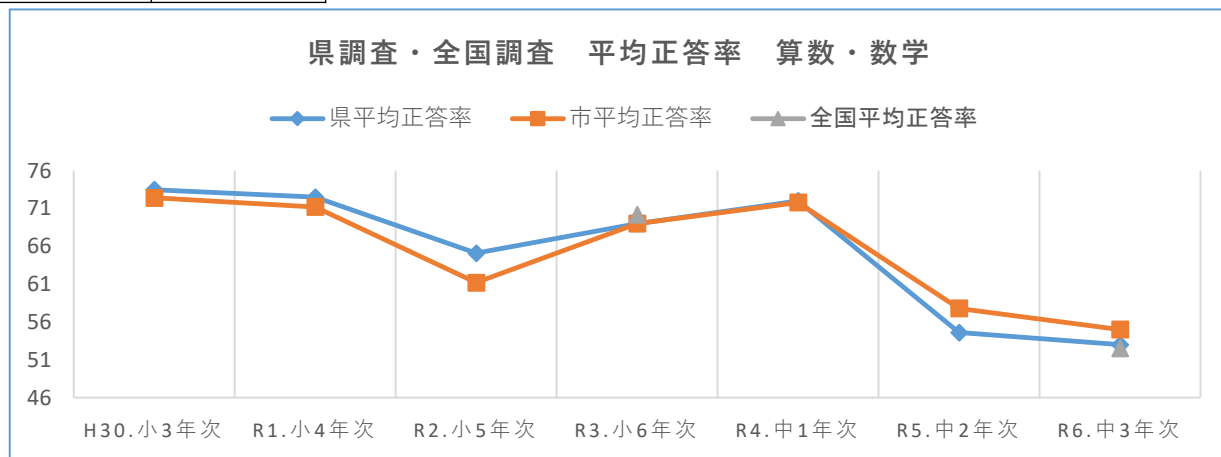
# 同一集団による経年比較により、改善と課題を明確に

令和6年度中学3年生の小学3年次からの経年変化を岡山県の平均正答率と比較したものです。3年生から5年生、中1、中2の平均正答率は「岡山県学力・学習状況調査」、6年生、中学3年生の平均正答率は「全国学力・学習状況調査」をそれぞれ用いています。



2016年度入学 令和6年度中学3年生							
国語	H30.小3年次	R1.小4年次	R2.小5年次	R3.小6年次	R4.中1年次	R5.中2年次	R6.中3年次
県平均正答率	76	67.7	70.4	66	58.9	65.3	59
市平均正答率	75.2	67.5	67.9	64	57.3	65.3	58
全国平均正答率				64.7			58.1

中央値	
	R6 全国調査
岡山県	9
赤磐市	9
全国	9



2016年度入学 令和6年度中学3年生							
算数・数学	H30.小3年次	R1.小4年次	R2.小5年次	R3.小6年次	R4.中1年次	R5.中2年次	R6.中3年次
県平均正答率	73.5	72.5	65.1	69	72	54.6	53
市平均正答率	72.4	71.2	61.2	69	71.8	57.8	55
全国平均正答率				70.2			52.5

中央値	
	R6全国調査
岡山県	7
赤磐市	8
全国	8

## 学力調査結果の分析【中学校】

### 国語の概況

- 平均正答率は県と比べて $\Delta 1.0$ ポイント、全国と比べて $\Delta 0.1$ ポイント、中央値は県及び全国と同じく9である。

### 国語の改善点(○)と課題点(▲)

○領域ごとの平均正答率は、県や全国と差が見られない状況にある。

▲問題形式で見ると、自分の考えを書いたり、書かれている内容を要約したりする「記述式」の問題について県や全国よりも平均正答率が低い状況にある。

### 国語の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- 領域ごとに平均正答率に県や全国と差が見られないことから、バランスよく資質能力が身に付いてきている様子を見て取ることができる。特に「読むこと」に関しては、中学1年次、2年次の県調査と比較すると正答率が上昇し、県や全国との差が縮まっている。
- 「記述式」の問題についての指導に当たっては、目的意識をもって他者の考えや文章を要約してまとめたり、説明したりする機会を設定し、生徒自身が「できた」ことが実感できる振り返りを効果的に行うことが重要だと考えられる。
- 正答率が40%程度の生徒の割合は県や全国よりも高い状態にある。その生徒たちが「できた」「わかった」と実感できる授業に向けて、引き続き授業改善を行う必要がある。

### 数学の概況

- 平均正答率は県と比べて $+2.0$ ポイント、全国と比べて $+2.5$ ポイント、中央値は県よりも1高く、全国とは同じ状況である。
- 6年次以降、平均正答率が県を上回っている。

### 数学の改善点(○)と課題点(▲)

○どの領域においても、県や全国の平均正答率を上回っており、学力の定着の様子がうかがわれる。特に「関数」の領域については中学1年次、2年次と比べ正答率が上昇している。

### 数学の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- 「知識・技能」を図る設問の平均正答率は $+3.0$ ポイント以上であるのに対し、「思考力・判断力・表現力等」を図る設問の平均正答率は、県や全国とほぼ同等である。このことから、授業改善に当たっては、考えをまとめ、他者に説明するなど表現する活動を取り入れることが考えられる。
- 6年次から県との差を縮め、中学1年次から上回っていることは授業改善を日々行ってきた成果であると考えられる。
- 正答率40%以下の生徒も見られ、学習内容を取りこぼしている生徒がいることが考えられる。各校において授業改善や個に応じた支援の在り方を検討する必要がある。



## 児童・生徒質問調査と授業改善【小中共通】

### <自己決定のある学び>

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」という質問に対して、肯定的な回答は小中学校ともに、県や全国を上回っている。一方、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか。」という質問についての肯定的な回答は、小学校では全国を下回っており、中学校では、県も全国も下回っている。

総合的な学習の時間では課題を自ら見出し、探究する授業が行われていることが見受けられる。他教科・領域においても、学び方を児童生徒に委ねることで、学習の過程において多くの自己決定を行い、児童生徒主体の学習となり、自身で学習を調整したり、粘り強く学んだりする姿につながると考える。

### <振り返りの充実>

「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりした。」という質問に対して多くの児童生徒が肯定的な回答をしており、小学校では県や全国を上回り、中学校では、県や全国と同じ程度である。このことから、授業の中で、意見を交流し合う対話のある学びに向けて授業改善が進んでいることがうかがわれる。

一方、児童生徒、個々の状況に焦点を当てると、話し合って気づいたことなどが、自分自身の力として定着しているとは限らないという結果も見受けられる。話し合い等で得られた学びをより自分の力として定着させるために、振り返りを充実させることが必要であると考えます。

授業の終末に「振り返り」の時間を充実させ、「何が分かったか。」「何ができるようになったか。」「自分の学びのプロセスはどうであったか。」などと、自分自身を客観的に振り返ることを通して、学びを定着させたり、自身の学習を調整したりできると考える。

### <ICTの利活用>

「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。」を問う質問に対し、週3回以上と回答している割合は、県や全国よりも小学校で、△20ポイントなのに対し、中学校では+15ポイントとなっている。「令和の日本型学校教育」を目指す中で、ICTの活用と授業改善は一体的にとらえる必要があり、上記の「自己決定のある学び」や「学習の振り返り」の場面でもICTの強みを生かし、効果的に行うことができる。

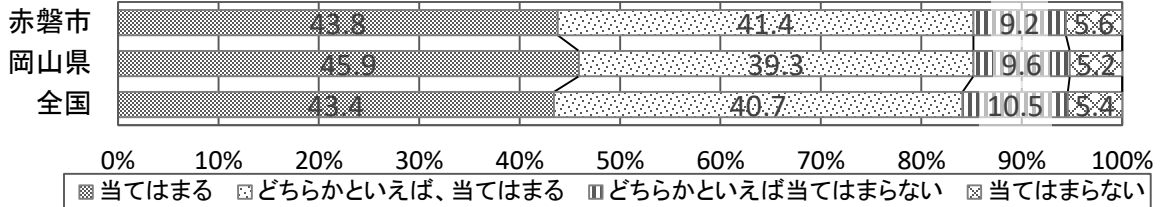
その点において、小学校では授業でのICT利活用について研修と活用を進める必要がある。小学校段階から計画的にICTを活用していくことで、中学校ではさらに生徒自身が自分で学びを選択するツールとして主体的にICTを生かすことができると考える。

# 小学校6年生の学習状況調査結果から

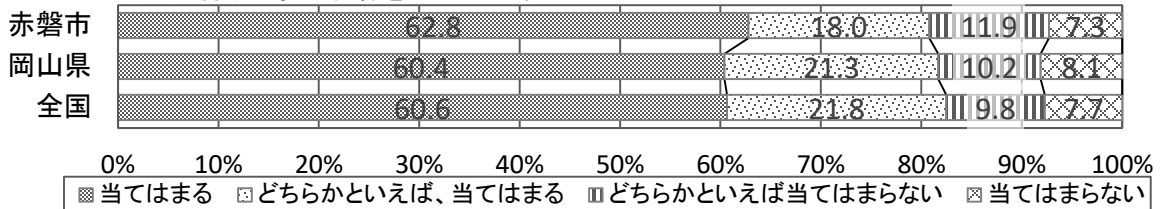
## 「自分を高める力」

### 自尊感情や向上心など、よりよい自分に向かおうとする力

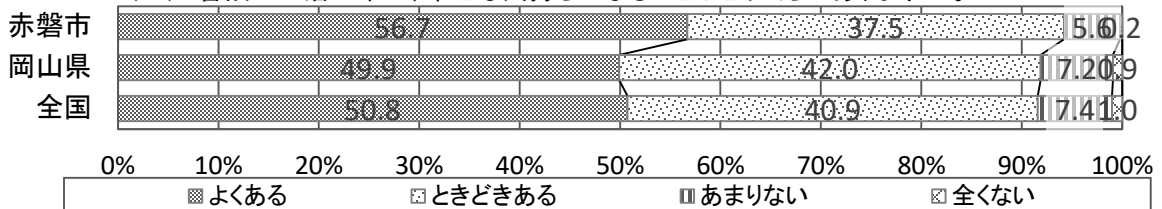
(9) 自分には、よいところがあると思いますか。



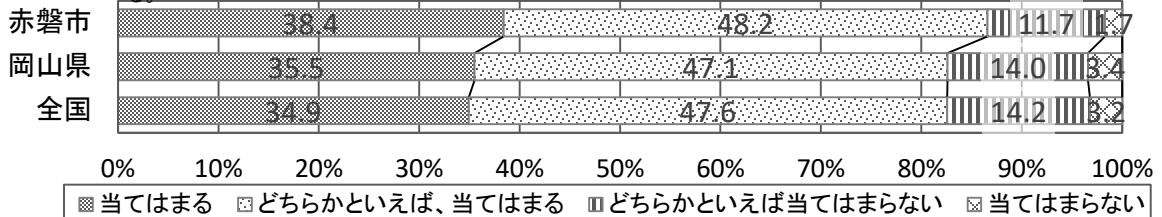
(11) 将来の夢や目標をもっている。



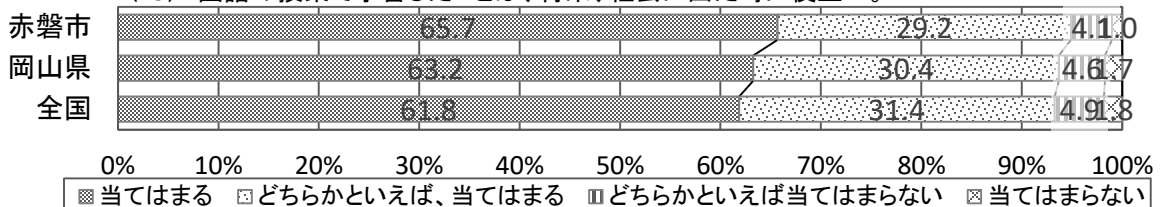
(19) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



(40) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



(45) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。



(53) 算数の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役立つ。

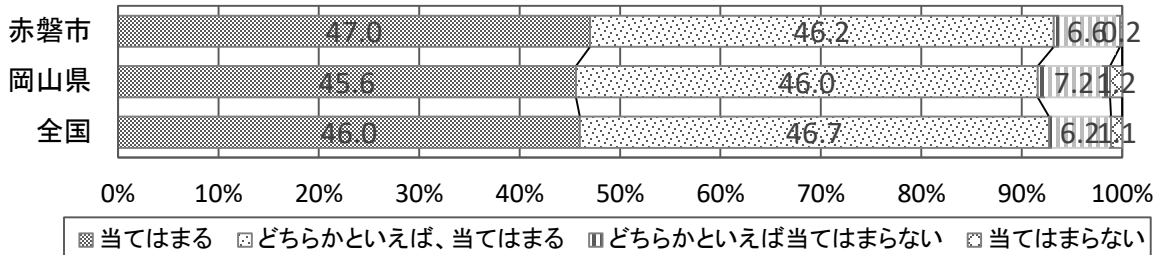


# 小学校6年生の学習状況調査結果から

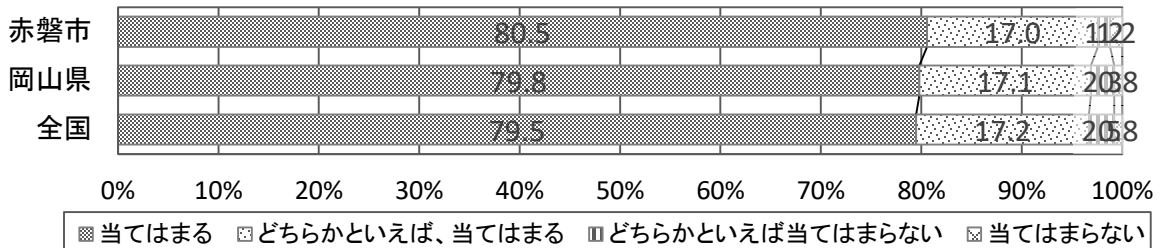
## 「自分と向き合う力」

### 粘り強さや自制心など、自分を調整する力

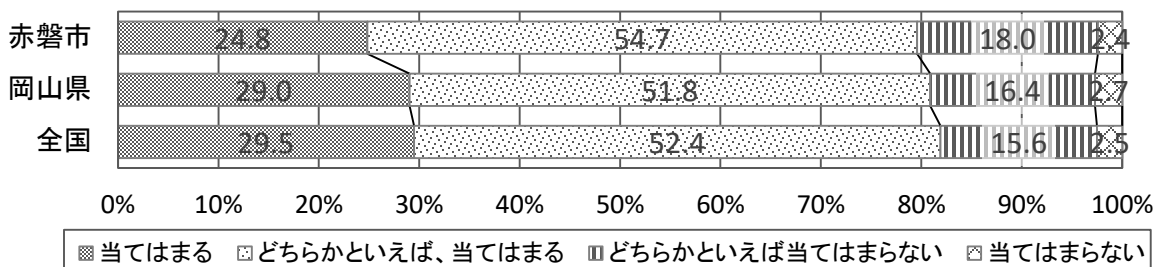
(12) 人が困っている時は進んで助けている。



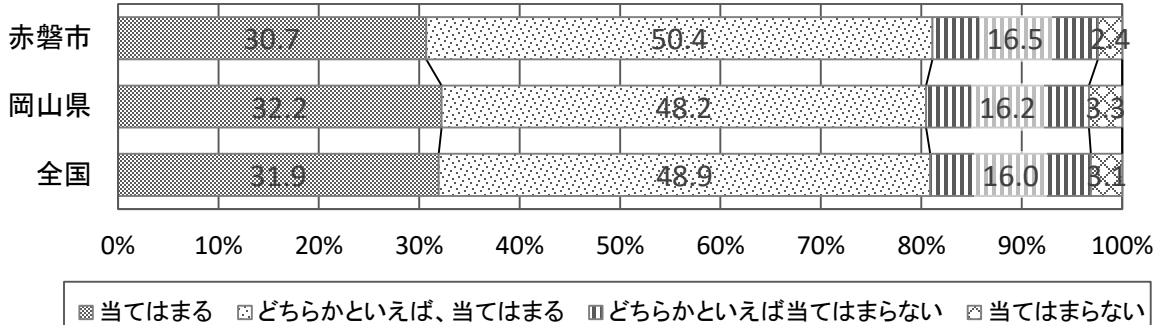
(12) いじめはどんな理由あってもいけないことだと思う。



(30) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



(34) 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。

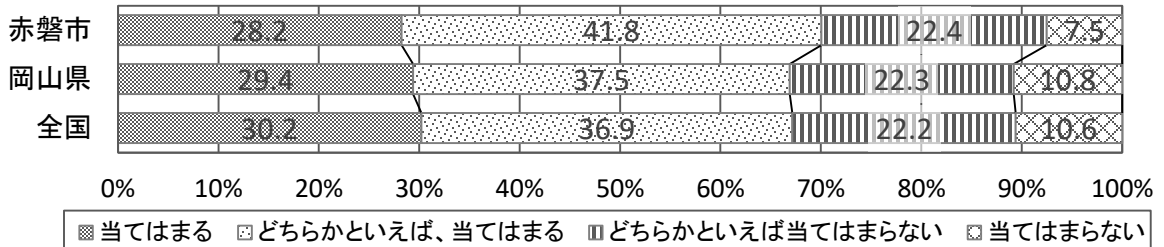


# 小学校6年生の学習状況調査結果から

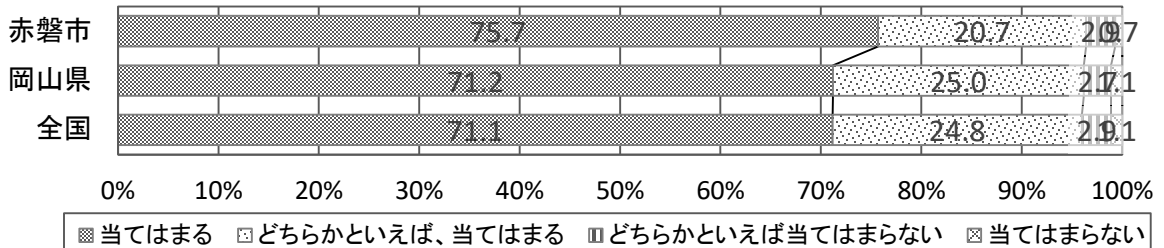
## 「他者とつながり合う力」

### 共感性や協調性など他者と協調・協働する力

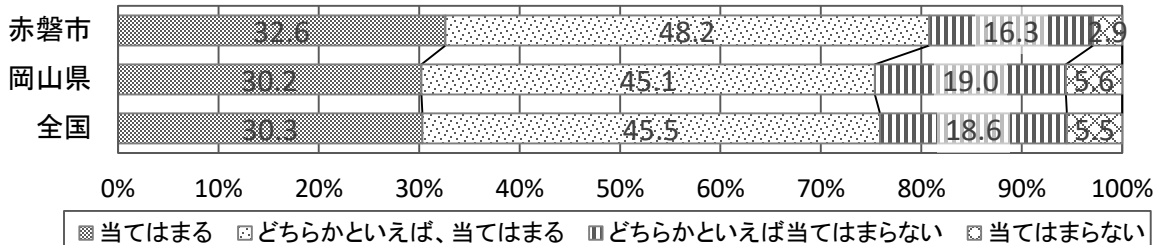
(14) 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



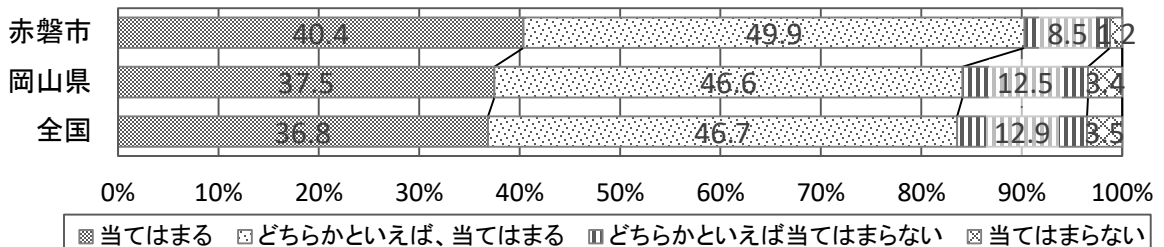
(15) 人の役に立つ人間になりたいと思う。



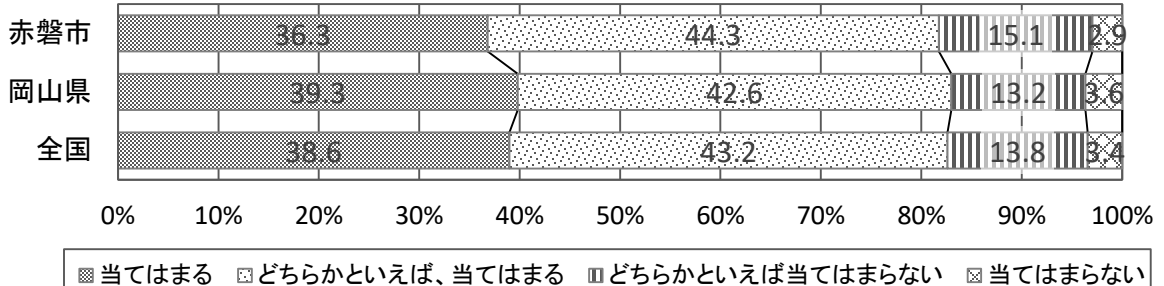
(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



(33) 学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができますか。

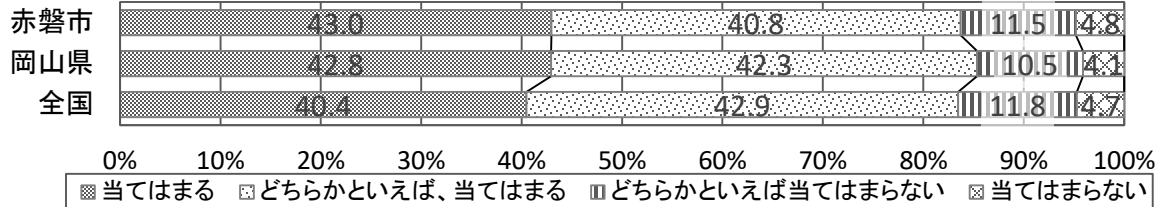


# 中学校3年生の学習状況調査結果から

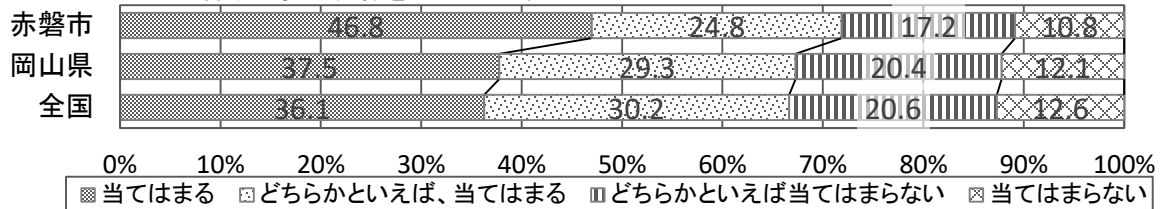
## 「自分を高める力」

自尊心や向上心など、よりよい自分に向かおうとする力

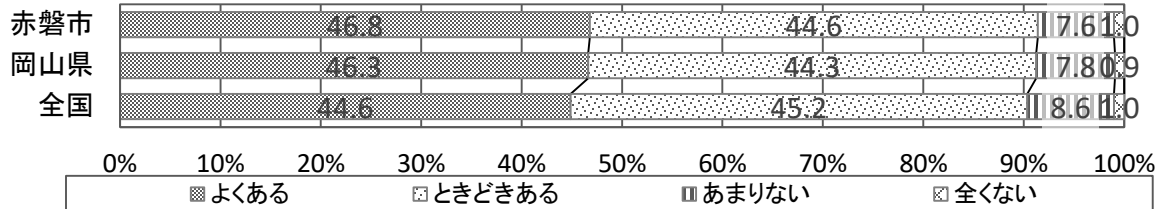
(9) 自分には、よいところがあると思いますか。



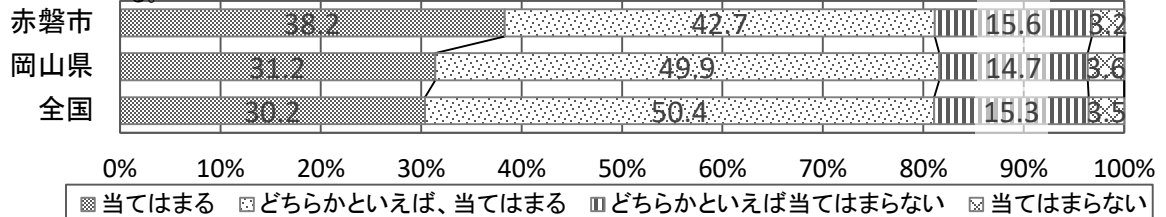
(11) 将来の夢や目標をもっている。



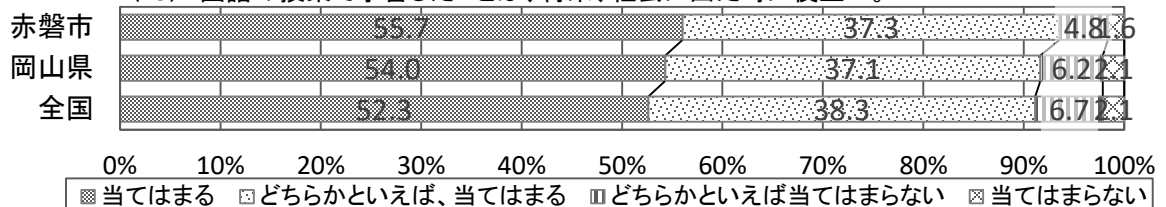
(19) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



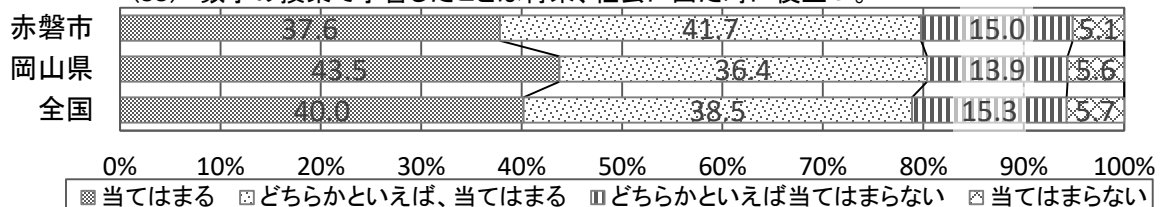
(40) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



(45) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。



(58) 数学の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役立つ。

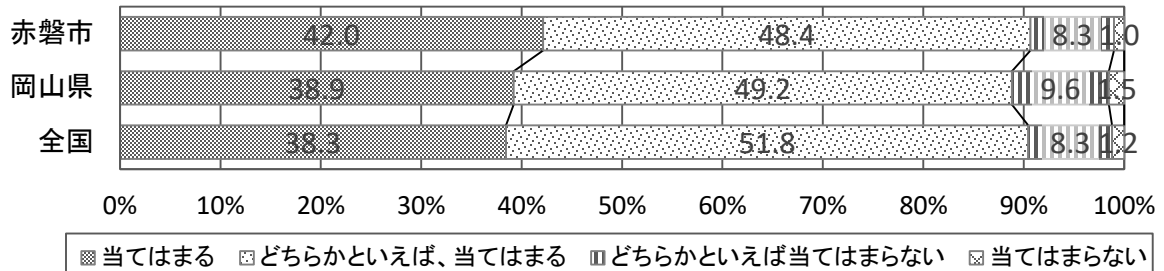


# 中学校3年生の学習状況調査結果から

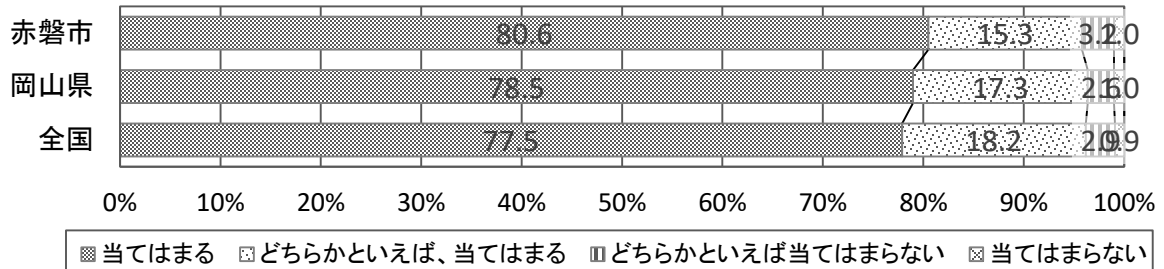
## 「自分と向き合う力」

### 粘り強さや自制心など、自分を調整する力

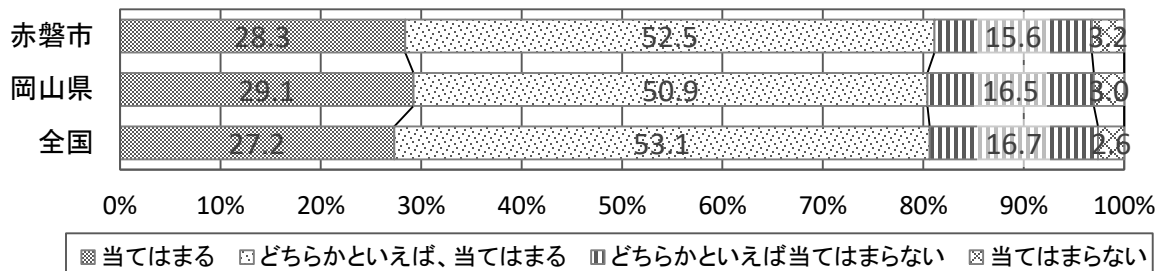
(12) 人が困っている時は進んで助けている。



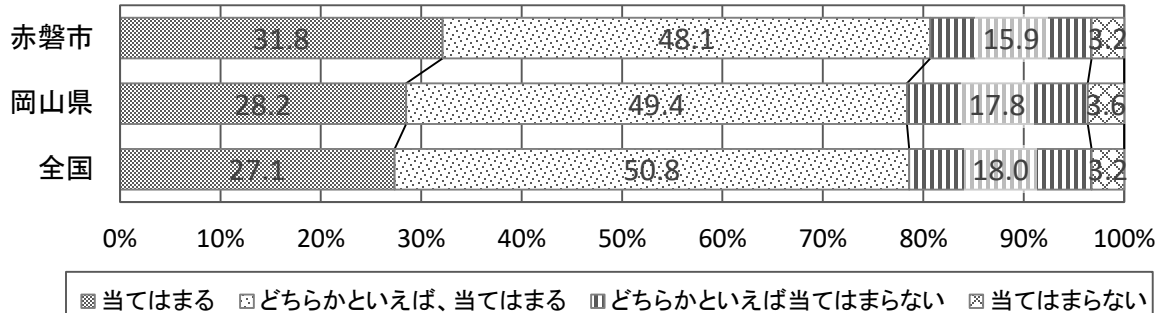
(13) いじめはどんな理由あってもいけないことだと思う。



(30) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



(34) 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

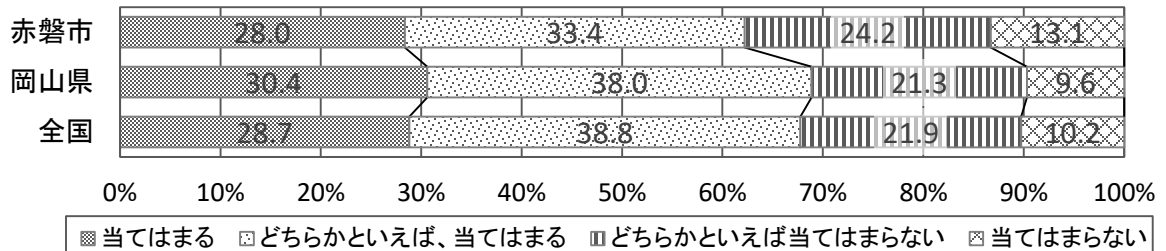


# 中学校3年生の学習状況調査結果から

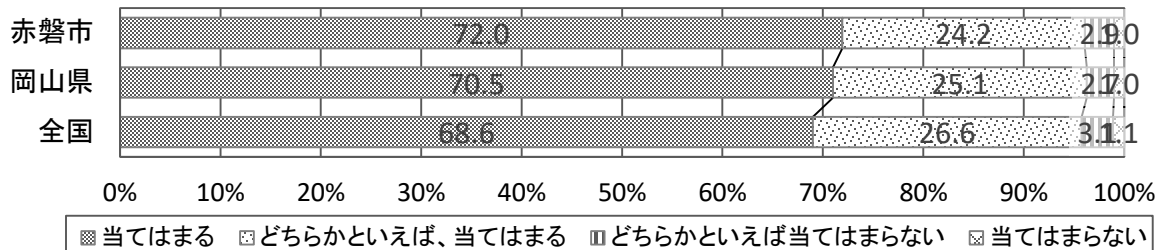
## 「他者とつながり合う力」

### 共感性や協調性など他者と協調・協働する力

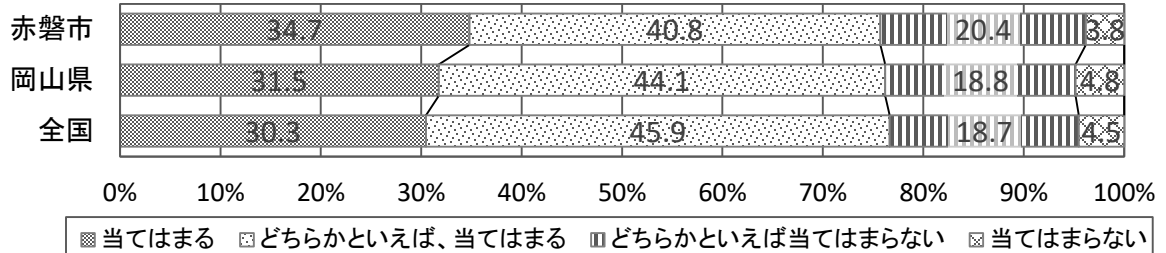
(14) 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



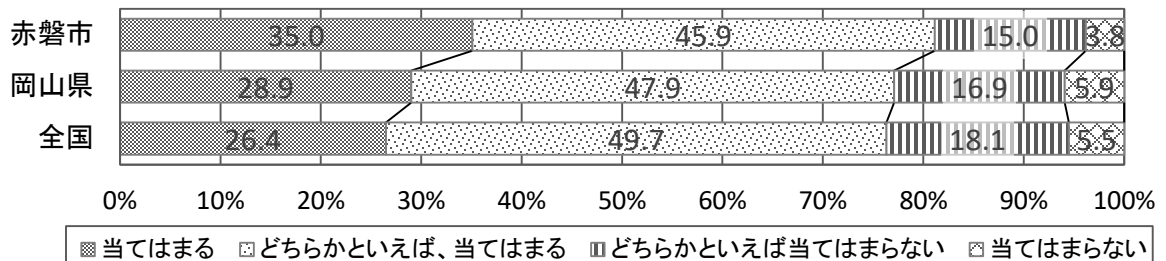
(15) 人の役に立つ人間になりたいと思う。



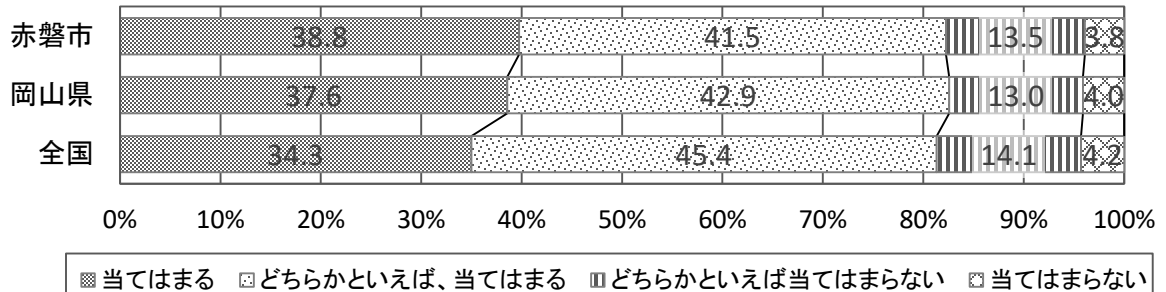
(17) 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



(33) 学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができますか。



# 非認知能力を育成し生きる力と学力の基盤づくり

## 学習状況調査結果の分析

非認知能力を育成することで学力も向上することは研究でも示されているところです。また、非認知能力は個々の生きる力にとっても重要な能力です。児童生徒の質問紙から状況を把握、分析します。

### 小学校の結果「自分を高める力」

- ・「自分には、よいところがあると思う。」「将来の夢や目標をもっている」という質問に対し、肯定的な回答の割合は県や全国とほぼ同じ状況であった。
- ・「国語（算数）の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。」という質問に対する回答は県や全国と比べて、肯定的な回答の割合が高い。

### 小学校の結果「自分と向き合う力」

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」「人が困っている時は進んで助けている。」という質問に対しては、県や全国と比べてほぼ同じ状況であった。
- ・学習への取り組み方に対する質問項目(30)(34)については県や全国と比べ「当てはまる」という回答の割合が低い。

### 小学校の結果「他者とつながり合う力」

- ・「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問に対し県やする肯定的な回答は県や全国とほぼ同じ状況である。
- ・「人の役に立つ人間になりたい。」「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」という質問に対しては、県や全国よりも肯定的な回答の割合が高い。

## 小学校の結果に対する分析

- ・児童質問紙「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」については93.2%が肯定的な回答をしており、県や全国を大きく上回っている。また、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか。」という質問には89.8%が肯定的な回答をしておりこちらも県や全国を上回っている。教師と児童との信頼関係が基盤となり、学力の改善に結び付いていると考えられる。
- ・「人の役に立つ人間になりたい。」「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」という質問の肯定的な回答が高いのは赤磐市の児童の特徴である。このことは自尊心を高める要因となるものであり、引き続き、同じ傾向が見られていることは、先生方の日ごろの学級経営の努力の成果であると考えられる。
- ・授業の終末や行事等に行う「振り返り」は、自分の学びのプロセスをメタ認知したり、他者のよいところに気づいたりとは非認知能力を育成するにあたって有効であるということは研究でも示されている。授業や行事等様々な場面での振り返りに対して教師が適切にフィードバックを行うことを通して、より一層「振り返り」の効果が増してくるものと考えられる。
- ・13%程度の児童は「自分には、よいところがあると思う。」という質問に否定的な回答をしている。各校では、要因の分析や個別の対応が必要である。



## 中学校の結果「自分を高める力」

- ・「将来の夢や目標をもっている。」という質問に対し、肯定的な回答の割合は県や全国を上回っている。
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、いま、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」という質問に対し、「当てはまる」という回答は県や全国を7ポイント以上上回っている。
- ・「自分には、よいところがあると思う」という質問については、肯定的な割合が県や全国とほぼ同じ状況である。また、15%程度の生徒は否定的な回答をしている。
- ・「国語（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。」という質問に対する回答は県や全国と比べて、肯定的な回答の割合が低い。

## 中学校の結果「自分と向き合う力」

- ・「人が困っている時は進んで助けている。」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問について肯定的な回答の割合は県や全国を上回っている。

## 中学校の結果「他者とながら合う力」

- ・「人の役に立つ人間になりたい。」「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」という質問に対しては、県や全国よりも肯定的な回答の割合が高い。
- ・「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問に対して、肯定的な回答が県や全国と比べ△5ポイントという状況である。

## 中学校の結果に対する分析

- ・「人の役に立つ人間になりたい。」「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」という質問に対しては、県や全国よりも肯定的な回答の割合が高い状況にある。各校において、生徒主体の取組を大切にしている中で、自己有用感を感じ、このような意識が高まっていると考える。また、研究調査※2によると、日本の若者の特徴として、「他者の役に立っている」という自己有用感が自尊感情につながる傾向があることが示されており、良い状況にあると考える。
- ・「将来の夢や目標をもっている。」という質問の「当てはまる」という回答は県や全国よりも10ポイントほど上回っている状況である。岡山型PBL※1など、自分の課題を設定し、探究的に問題解決に取り組む学習を積極的に行っており、その成果が表れているものと考えられる。
- ・「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問に対して、肯定的な回答が県や全国と比べ△5ポイントという状況であり、否定的な回答の割合は37%にもおよんでいる。個々の生徒の状況を多くの教員で共有し、様々な職員と連携を図りながら相談しやすい安心できる環境を整備できるようにする必要がある。

## 教育委員会の取組

教育委員会として、改善点や課題点をもとに、次のような事業、取組を行い、児童生徒の非認知能力を基盤として学力の向上を図る。

### <学校改革・授業改善>

- ・赤磐市研究指定校事業 市内4校  
各校の主体的な研究をサポートし、成果を幼稚園、小中学校共有する。
- ・各種授業研修会 年間10回  
授業づくり研修会、ICT授業活用研修会、特別支援教育授業づくり研修会を開催し、教員の指導力向上を図る。
- ・中学校ブロック研修会  
中学校ブロックごとに児童生徒や学習の状況を共有し、指導に生かす。
- ・架け橋プログラムの推進（幼保こ小連携）
- ・指導訪問  
指導主事が各校へ訪問し、授業についての指導助言を行う。

### <個に応じた支援>

- ・各種人員配置により、落ち着いた学習環境づくり・個に応じた指導を充実させ、学力向上を図る。
  - 常勤講師（市費）による35人以下学級の実現
  - 非常勤講師、学習支援員、特別支援教育支援員による個別の学習支援
  - 大学生による学習支援ボランティア
  - 補充学習支援員により、長期休業中や放課後、朝の活動等で学習支援を行う。

### <未来がみえる学校プロジェクト>

- ・桜が丘中学校をパイロット校として新しい学校の学びの形を研究する。

### <コミュニティ・スクール>

- ・地域と学校とが協働して子どもたちの成長を支える仕組みを構築する。

### 参考

・耳塚寛明(2021)「学力格差への処方箋」勁草書房

※1・岡山型PBLガイドブック(2023)岡山県教育委員会

※2・こども家庭庁長官官房参事官(令和5年度)「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査」

・ジョン・ハッティ(2017)「学習に何が最も効果的か メタ分析による学習の可視化」あいり出版

・ジョン・ハッティ / シャーリー・クラーク(2023)「教育の効果:フィードバック編」法律文化社

・中山芳一(2020)「自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ」東京書籍

・小学校学習指導要領 中学校学習指導要領

・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査 解説資料」

・小林和雄/梶浦真(2024)「『振り返り』の基礎知識」(有)教育報道出版社

・嶋野道弘/青木芳弘/齋藤博伸(2024)「授業は変えられる」東洋館出版社

※「岡山型PBL」・・・PBLの考え方を踏まえ、学習内容に応じて「自己決定の場を設ける」「振り返りを重視する」「地域の多様な『人・もの・こと』と関わる」3点を大切にするとともに、「夢育」で重視している非認知能力の育成も意識しながら、各教科等や総合的な学習の時間、特別活動の目標に示す、資質・能力を身につける学習方法です。

PBL(Project Based Learning)・・・児童生徒が自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程を通して、課題解決に必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことで、「課題解決学習」ともいわれる。